

【派遣】信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための学生への海外活動(短期)支援実施状況および成果	
プログラム名	グローバル人材育成のためのスウェーデン学校臨床実習
学部・研究科名	教育学部
プログラム実施期間	2022年10月7日～10月16日
研修先(国・都市・施設名)	スウェーデン・ストックホルム
参加学生数 : 10名	知の森からの支援者 : 10名
プログラム概要	<p>スウェーデンのウプサラ大学(協定校)、及び3つの小中学校を視察し、授業に参加することで、学生自身が体験してきた日本の学校体験を相対化し、客観的に捉え直し、教育実践を創造的に開発できるようになることを目的とした。</p> <p>世界的な視野、長期的な展望にたつて、長野県の子どもたちが将来必要とされる能力やスキル、態度について深い考えを持ち、長野県の教育の質の向上に貢献できることを期待している。</p> <p>スウェーデンの学校文化に触れ、これまで当たり前と考えてきた自分の学校体験を振り返り、文章として表現するために現地活動期間中は日々ブログ記事を執筆した。</p> <p>また、学校訪問を形式だった報告書として記録し、収集した情報を整理したり、学校文化の背景にある価値観を考察したりすることを通じて、各訪問機関ごとに研修報告書を作成した。</p> <p>そして、帰国後は報告会を開催し、参加者以外の者に対して、参加者自身が得た知見や感動を広めた。</p>

実施状況・成果

本プログラムでは、10名の教育学部及び大学院生が、スウェーデンのウプサラ大学教育学部生との交流、3つの小中学校での視察・教育参加を行いました。

ウプサラ大学生とはランチタイムに交流を行いました。スウェーデンでの大学生活について質問したところ、大学で単位取得するにはテストで75%以上を取らなければならない、一夜漬けでテストに挑むことは難しいため、計画的に勉強を進めなければならない。また、教科書や書籍に基づく学習と同様に、体験から学びを得ることを他者との協働や自身の活動の省察にあたって大切にしていることを聞きました。現地の伝統料理に舌鼓を打ちながら、とても有意義な時間を過ごすことができました。

小中学校では、英語・理科・図工・工芸・音楽・算数の授業を視察しました。日本の授業と大きく違うのは、決められた椅子に座って授業を受けるのではないということです。足でこぐバイク付きの机があり、そこで足を動かしながら授業を受ける子どもや、教室ではなく学校の好きなところで作業をしたり、廊下のソファなどで調べ学習を行っている子どもたちもいました。また、理科の授業では、パソコンの中に入っている教材を使用し、説明の動画を見たり練習問題を解いたりするため、当たり前ICT活用が行われている様子も見ることができました。日本では、体育の授業で身体を動かしますが、スウェーデンでは身体を動かすこと自体が教育に良い影響があると考えられています。そのために休み時間は長く、授業中はカギがかいられている校舎もカギを外して、外で体を思いっきり動かして遊ぶ時間にあてています。こうした背景のもと、子どもたちは頭と心をリフレッシュさせながら、一生懸命に授業を受けていました。特別支援教室を設けている学校では、教室での授業が難しい子どもたちが別室で勉強をし、傍らには「教育犬」もいました。彼らにとって第二外国語である英語は6歳から学ぶとのことですが、授業を嫌がる子どもも見られず、ゲームをしたりグループで楽しそうに議論したりし、高い英語力を養っていました。

今回の視察を体験したことで、学生は自分の授業観との相違や教育方針の違いなどを考え、見つめ直す良い機会となりました。グローバルな視野を持つ子どもたちを育てる将来の教育者の育成には、今後このような機会を設けたり、指導に取り入れたいことが期待されます。

学生の声①-教育学研究科 学生

今回のスウェーデン研修では、「一人一人が尊重される」場面にたくさん出会い、多くの気付きがありました。学校教育においては、子ども自身が自分の特性に応じて学び方を選択したり、自分の考えをアウトプットする場がたくさん用意されていたりしました。特に後者のアウトプットの場面で、教師の問いかけに対してすぐに反応できる子どもたちの姿と、どの子の考えも共感的に受け止め、それを伝える教師の姿がとても印象的でした。子どもたちは、自分の表現したものがきちんと受け取られたりフィードバックを得られたりと、「尊重される」ことで、また次も表現しようというサイクルができるのではないかと感じます。自分の考えを持ち、それを恐れずに外に表現できたり、教師も子どもと一緒に考えを伝え合ったりするような授業や環境を、私も作れるようにしたいなと思いました。

学校で、様々な国から移住してきた子どもたちがいると知って驚いた自分がいました。スウェーデンにはヨーロッパ系の人が住んでいる、という思い込みが自分の中にあっただことに気がきました。あるクラスにはトルコとベルギーから来たばかりの子どもたちがいて、英語を介して仲間とコミュニケーションを取る姿がありました。また別のクラスには、アフガニスタンやロシアから来たばかりの子どもたちがいて、英語も学んだことがないため、まずはスウェーデン語から学習を始めていました。たくさんの国の人がいるのが当たり前で、「一人一人が尊重される」雰囲気は過ごしやすさを感じました。子ども大人も、スウェーデンで生まれ育ってもそうでなくても、今ここにいるわたしの存在が受け止められ、大切にされている環境がとても素敵だなと思いました。

日本においても、自分の思い込みや当たり前を揺さぶる出会いはあります。でも、国を越えてみると、さらに違う文化や環境の中で生活している方々に出会い、もつと自分の価値観が揺さぶられる出来事を経験することができます。いつか行こう、ではなく、今、今、行ってみたいと思います。

学生の声②-教育学部 学生

以前から他国の教育について興味があり、「北欧の教育は良い」とよく言われていたので、どのように良いのか自分の目で見てみたいと思い参加を決めました。

現地の学校の授業を目の前で観察し、「こんな教育方法もあるのだな」と驚くことが多々ありました。海外の学校教育を自分の目で見る機会は減多にないので、これから教員になるために勉強していく中で一生モノの経験ができたと思います。

ウプサラ大学の学生さんとの交流では、大学制度の違いや現地の文化について「同年代」の目線で語り合うことができ、とても新鮮でした。

教育以外にも公共施設の違いや、乗り物の乗り方の違いも楽しみながら体験することができました。

現地の方々のほとんどが英語を話すことができるので、研修に参加する前に英会話を少しでもやっておくと、現地で何かあったときにも安心です。

海外研修と聞くと「辛い」とか「過酷」ということをイメージしてしまう方もいると思いますが、全くそんなことはありません。とても勉強になり、素晴らしい出会いができる研修なので、参加するかどうか迷っている方はぜひチャレンジしてみてください！

ウプサラ大学生とのランチ交流会



スウェーデンで一生懸命学んできました！

